

# 宮城県中学校理科教育研究大会栗原大会の概要

## はじめに

地区の状況を踏まえ、理科の県大会運営を小中合同とし、公開授業と資料発表については、それぞれの会場で行うことを基本方針に、昨年度から栗原市教育連絡協議会理科部会を中心に実行委員会を組織し取り組んできた。

県大会栗原大会については、理科の教科書に写真で大きく取り上げられている栗駒山麓崩壊群の地形・景観の実地踏査を小・中の午前の研修として組み入れることとした。当日のコースと解説員の派遣については、栗駒山麓ジオパーク推進協議会の全面的な支援を受けることになった。午後からは、公開授業と授業検討会、研究発表を行った。公開授業については、地区の代表としての発表ととらえ、地区の理科部員全員による指導案検討会、先行授業による検討会等を行い当日に備えた。

## 宮城県中学校理科教育研究大会栗原大会

[期 日] 平成29年9月8日(金)

[会 場] 栗原市志波姫中学校

[日程と内容]

1 ジオパーク実地踏査(希望研修) 9:15~13:00  
学校出発(築館小学校・志波姫中学校) → 荒砥沢冠頭部見学 → 礼沢崩落地  
見学 → 昼食 → 学校到着(築館小学校・志波姫中学校)

2 公開授業 13:20~14:10  
単元名  
「動物のからだのつくりとはたらき」(第2学年)  
授業者  
栗原市立志波姫中学校 教諭 大泉満

3 授業検討会 14:20~15:05  
指導助言  
宮城県北部教育事務所栗原地域事務所 主幹 指導主事 野家智昭  
司 会  
栗原市立築館中学校 伊藤直之

[授業者自評]

- 前時に本時の目的の確認と、実験方法を生徒に考えさせたところ、食べ物(ご飯など)を使って行ったらどうかという意見も出た。
- 考察の時間を確保するため、実験の準備を事前に行わせた。
- 「だ液に等が含まれている」という誤った考えが出てきたので、内容を深めていく中で対応する。

[主な質疑応答]

Q:今回、男女別の班編制をしたことの意図は。

A：生徒の実態に応じて様々なことを考慮した班編制が望ましいと思うが、今回は出席番号順で機械的に班編制を行った。

Q：時間を守っての活動の習慣化がされていた。普段の授業で気をつけていることは。

A：タイマーを使って、時間を提示することで意識付けを行っている。

[指導助言]

○ICT機器、ホワイトボードが活用され、班での活動も、スムーズに行われていた。

○主体的・対話的で深い学びが求められている。計画立案時の課題提示で見通しをもたせることが主体的な学びにつながるので大切にしてほしい。

○個で考え互いの意見交換を行い練り上げていくことが対話的な学びにつながるので、授業の展開の中にそういう場面があると良い。

○自分の言葉でまとめなおすことが、深い学びにつながる。意図的に機会をつくって実践を重ねてほしい。

#### 4 研究発表 15：10～16：05

分野	学校名	発表者
1分野	蔵王町立宮中学校	教諭 氏家 大輔
	気仙沼市立気仙沼中学校	教諭 及川 泰幸
2分野	仙台市立高森中学校	教諭 秋場 良紀
	石巻市立石巻中学校	教諭 日野口 香

#### 5 全体会 16：05～16：15

○開会のあいさつ

宮城県連合中学校教育研究会 理科部会長 佐々木勉

○祝辞

栗原市教育委員会 教育長 佐藤新一

○来賓紹介・助言者紹介

○閉会及び次期開催地挨拶

仙台市立愛宕中学校 校長 遠藤武彦